

平成 29 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練に参加しました (2017/9/1)

テーマ：帰宅困難者、訓練

場所：JR 仙台駅、地下鉄仙台駅、宮城第一信用金庫（宮城県仙台市青葉区）

2017 年 9 月 1 日(金)午前、仙台駅において、仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会主催の「平成 29 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練」が実施され、現在、帰宅困難者問題を研究している当研究所の丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）と寅屋敷哲也助教（同部門）が参加しました。同訓練は、2014 年に第 1 回目を実施以降、年に 1 度実施され、今回は、同協議会、協定締結事業者、仙台市、仙台駅周辺事業者、周辺大学等の学生ボランティア等が参加しました。

当日、訓練参加者は JR 仙台駅の西口側と東口側の二手に分かれ、地震発生に伴う周辺交通機関の運行停止を想定して訓練が開始されました。西口側の帰宅困難者訓練は、S-PAL 本館 2 階入口前に滞在中に地震が発生したと想定し、しゃがんで頭を守る身体保護の行動を行い、次に、西口緊急退避場所として指定された地上駐車場近辺に移動し、一時滞在所の受入れ体制が整うまで待機しました。その間、現地対策本部からの関係情報の提供は、協議会からのメガホンでの呼びかけ、ホワイトボードへの記入、および twitter での発信で行われました。

今回使用された一時滞在所は、仙台駅 2 階東西自由通路、宮城第一信用金庫及び地下鉄仙台駅の 3 箇所で、帰宅困難者を 3 つのグループに分け、グループの中から誘導するリーダーを決め、地図で場所を確認しながら移動しました。また、妊婦役やけが人役等の要支援者が設定され、周りにいる帰宅困難者が移動の際にこれらの方を支えるよう要請が行われました。

当研究所の参加者兩名は、宮城第一信用金庫が一時滞在所と指定され、同施設へ到着後、受付で名前を記入し、施設内のホールに誘導されました。受入れ場所には床にブルーシートが敷かれ、その上が帰宅困難者の滞在所となっていました。交通機関の運行状況等の情報がホワイトボードに記入され、張り紙で英語、中国語、韓国語の 4 カ国語で表記されたお知らせもあり、外国人への配慮もなされていました。一時滞在所にて、訓練参加者の救急救命の対応力向上のために、AED の使い方や毛布を使った人の搬送方法の講習が行われ、終了となりました。



地震発生（駅構内）



緊急退避場所（寅屋敷助教）



緊急退避場所での情報発信



一時滞在所までの移動（丸谷教授）



一時滞在所での受付



一時滞在所内での待機

文責：丸谷 浩明、寅屋敷 哲也（人間・社会対応研究部門）